『倫理学論究』、vol.1, no.2 の内容

本号には、下記の研究会における発表をもとにした文章を収録している。

第 20 回関西大学生命倫理研究会（2013 年 7 月 20 日、関西大学尚文館 404 教室）

特集　Hans Jonas の哲学

戸谷洋志　「乳飲み子」を「看る目」――ハンス・ヨナスの責任倫理学における認識論について

吉本　陵　ハンス・ヨーナスの哲学について

品川哲彦　「神にたいする人間の責任」という概念は成り立ちうるか

第 21 回関西大学生命倫理研究会（2013 年 12 月 7 日、関西大学尚文館 406 教室）

南木喜代恵　書評：Michael L. Gross, “Medicalized Weapons and Modern War”

〈哲学カフェ〉　「尊厳死」という概念のあいまいさ

このうち、Hans Jonas を主題とした第 20 回研究会の内容については、それぞれの発表にたいして、他のふたりの発表者からのコメントと、さらに発表者にコメントへの応答を求めた。その結果、吉本と戸谷については、まず、（コメントに応答したうえで）修正した論文を掲載し、ついで、当日の発表原稿にたいするコメントとそれにたいする発表者の応答をコメンテイターごとにこの順で掲載し、最後に、研究当日の発表原稿を参考資料として収録した。品川については、当日の発表原稿を大きく修正した原稿を用意できなかったために、当日の発表原稿をほぼそのままの形で収録し、その後に、吉本からのコメントと品川の応答、戸谷からのコメントと品川の応答をこの順で収録した。初めての試みだが、研究当日の原稿を掲載したのは、コメントと応答とのやりとりが読者にわかるようにするためである。しかし、当日の発表原稿を修正した論文こそが現時点での完成版だとすれば、当日の発表原稿を併載するのは煩瑣だともいえよう。今後も、活発な議論を紙上で展開するために、質疑応答を載せる試みは続けていきたいが、形式、内容についてはいろいろな工夫がありうることだろう。ご意見をお聞かせ願えればさいわいである。

最後に、第 21 回研究会での発表にもとづいた南木による書評を収録した。なお、哲学カフェで紹介した品川の論文は、『理想』692 号に掲載されたので本号には収録していない。